

令和 3 年度の八碁連支部活動報告

常任幹事 南 正一郎

令

和 3 年度の日本棋院の普及事業報告書によれば、長引くコロナ禍の影響もあり、前年に引き続き財政状況は大変厳しい状況にあるようです。昨年 9 月現在の会員数は 21,650 名と前年度を 13%も下回りました。小林理事長のもと、「日本棋院の抜本的改革」を柱として囲碁普及事業を推進し囲碁界を盛り上げていくことを期待します。

プロ碁界では、年初の棋聖戦で 9 連覇を達成した井山裕太九段が本因坊戦では本因坊 25 世治勲以来二人目の 10 連覇を見事に達成しました。棋聖戦では一力遼九段が 9 連覇を続けていた井山裕太九段を降した七番勝負は大変見応えがありました。若手棋士ではタイトル初挑戦の関航太郎七段(当時)が一力遼天元を降し、初タイトルを獲得しました。女流碁界では藤沢里奈女流本因坊や上野愛咲美女流棋聖が活躍し存在感を示しています。

次に八碁連支部の状況につき報告致します。

大会については、7 月に予定していた第 7 回級位認定囲碁大会及び 8 月に予定していた第 2 回ペア碁大会はコロナ禍により中止しました。11 月には幸いにしてコロナ禍も小康状態になり、八碁連大会と同時開催で熊丰七段、知念かおり六段の指導碁を開催し、24 名の方が受講されました。受講された方や知念かおり六段より感想文を寄せていただき、「八碁連だより」に紹介いたしました。また、吉澤實八段、三島敏明七段を講師とする囲碁研究会は、初段以上の会員の参加に衣替えし、30 回実施しました。

前年度に支部会員増、支部ポイント増を目指して次の 4 項目を進めることにしました。

1. 新規支部会員(日本棋院会員)の獲得
2. 日本棋院会員の支部会員への移行
3. ネット碁の「幽玄の間」会員や「情報会員」の支部への登録 (支部会員である制約はない)
4. 普及指導員の支部への登録 (支部会員が条件)です。

結果は 4 月 4 日時点で支部会員は 9 名増の 47 名で、ネット碁「幽玄の間」会員や普及指導員の支部への登録を加えて、ポイントは 70 ポイント増の 220 ポイントと大幅にアップしました。ご協力に大変感謝します。(棋士特別派遣等の特典を利用するには 150 ポイント以上が必要です。) また、月刊誌「囲碁未来」が発行部数の減少により今年 3 月で廃刊となりましたが、ほとんどの方が「碁ワールド」等への種別変更で継続して下さいました。ありがとうございます。「碁ワールド」の内容も「囲碁未来」で好評であったプログラムを折り込んだ新鮮な内容となり充実しています。

次に令和 4 年度の計画につきましては、宮崎新支部長のもと、例年どおりの「級位認定囲碁大会」「ペア碁大会」を計画し、「囲碁研究会」は毎月の第 1、第 3 木曜日に開催します。上記 4 項目は日

常活動として継続してやっていきます。ご協力のほど
よろしくお願ひします。

尚、平成4年度の総会につきましては、前年度同様、
八碁連会長(兼支部長)により、3月31日付けの書類
決済としました。総会資料をご所望の方はご連絡いた
ただければ送ります。

特記事項としては、成田前支部長が「週刊碁」と「月
刊碁ワールド」に八王子の子ども囲碁教室の状況を投
稿し全国に発信しました。また、小生、南が八碁連支
部の推薦により令和3年度の日本棋院普及活動賞を
受賞しました。身に余る思いです。今後も微力ながら
活動を続けたいと考えています。

以上

